

創造のチ



なかむら・いちや 慶応義塾大学D
MC機構教授。国際IT財団専務理
事。84年郵政省入省、パリ駐在、官
房総務課勤務などを経て退官。02～
06年スタンフォード日本センター研
究所長。内閣官房知的財産戦略本部
コンテンツ・日本ブランド専門調査
会委員なども務める。

なかむら・きよし 早稲田大学国際
教養学部教授。早稲田大卒業後、ハー
バード大学国際開発研究所客員研究
員、オックスフォード大学セント・
アントニース学寮スワイヤー客員研
究員、コロンビア・ビジネス・スク
ール通信情報研究所客員研究員など
を歴任。メディア産業組織論を専攻。

【パネル対談】通信・放送融合とその課題

中村伊知哉氏×中村清氏

新しい文化を生み出す 制度の改革が急務だ

中村清 「二つのCOIについて話し
たい。1つは人的資本をいかにメテ
ィア融合のなかで育成していくか。
もう1つはそれを支えるための資
金だ。世界的レベルでみると、米國
と日本のスタートアップの比率と
か産業の比率は大きな格差がある。

中村伊知哉 日本は光ファイバ
ーが普及している国はな。映像コ
ンテンツの中心がテレビにあるのも
日本の特徴だが、2次利用の比率が
非常に低い。

テレビのコンテンツは1回電波で
オンエアしてそれで終わりというレ
ジンスモデルがもたらした。
そこに新しいプロダクトバンドなど
のネットワークが出てきた時、ど
う結合するのか。放送でつながって
いるコンテンツを、通信網でも使える
ようにするにはどうしたらいいかと
いうのが政策の方向性だった。

日本の通信市場は16兆円、放送が
4兆円、総計20兆円だが、この20兆
円の市場が20兆円のままなのが、あ
るいは30兆円や40兆円になっていく
可能性はないのか。そういった方策
は制度として考えれば何が出来るの
かとどうしてやるかから議論が始まった。

新しい法律の考え方のポイントには
通信・放送サービスの規制、電波の
規制をどれだけ大幅に緩和できるの
かとどうしてやるか。

たとえば電波を曲がるようにさせ
たり通信でも放送でも同じように使
ってほしいという電波の使い方ができ
るようになってくるのか。なるか。す
れば、そこで新しいビジネス、サー

ビスが生まれてくるかもしれない。
中村清 若い世代を考えると、ほと
んどテレビは見ておらず、新聞も読
んでいない。情報はネット上でと
っている世界なので、人的にはかなり
新しいものが生まれる素地は多くなる
だろう。

問題は、起業する上での経済的な
基盤、ベンチャーファンドを呼びこ
むのがまだ少ない。そういう意味
での制度的な問題が残っている。

中村伊知哉 この4、5年、海外
から日本のポップパワーは高く評価
されてきた。マンガ、アニメ、ゲー
ム、ファッション、音楽なども若い世
代が増ってきた文化がデジタルのテ
クノロジーで世界に発信されてき
た。新しい文化や新しいムーブメン
トは、ネットと携帯の世界から出
てきている。

2010年、11年に向けてユビキ
タと特区をつくるというイニシアチブ
全国から集まってきたプランを見る
と、今までの制度ではできなかった
電波の使い方、携帯向けに新しい種
類のコンテンツを放送の形で提供す
るなどが、いろいろな提案があっ
て、少し活性化するかなと感じている。

中村清 日本の企業文化もその時
代に合ったものに変わっていかねば
ならない。グーグルは1日の働
ている時間の5分の一を何か新しい
ことを考えることに使わせたり理
念を助けている。日本の企業、日本
の社会もそういった意識を持つこと
が、いろいろな仕組みを仕掛けてい
く必要があるのかなと感じている。